

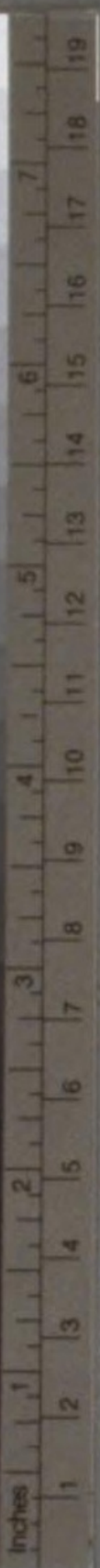
甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

東京帝國圖書

WA 32  
1  
10



甲陽軍鑑卷第十

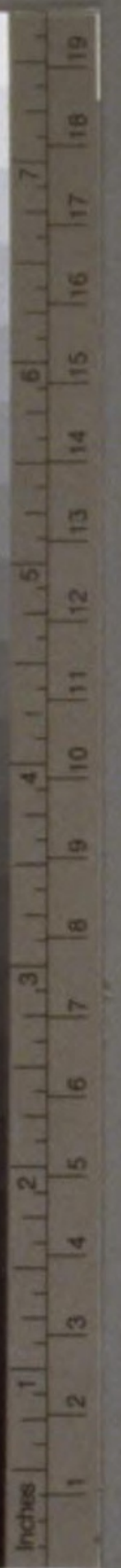
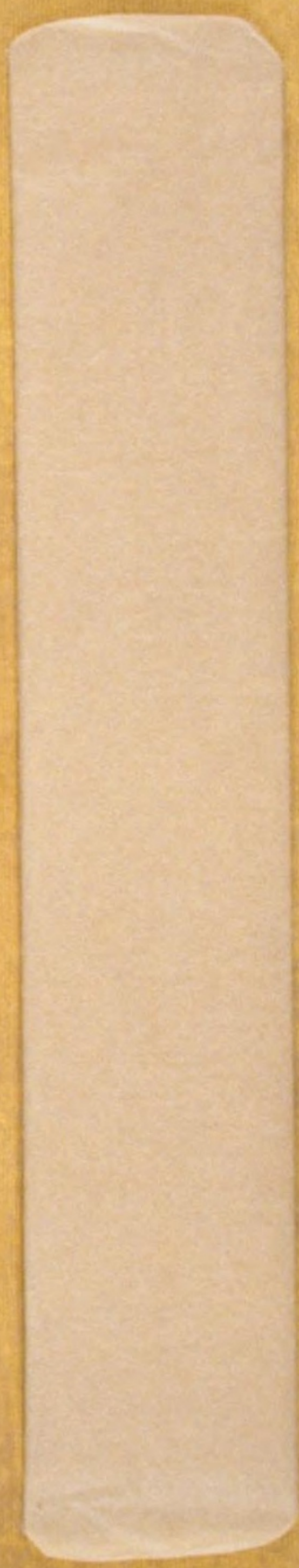


10-001

国立国会図書館



甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

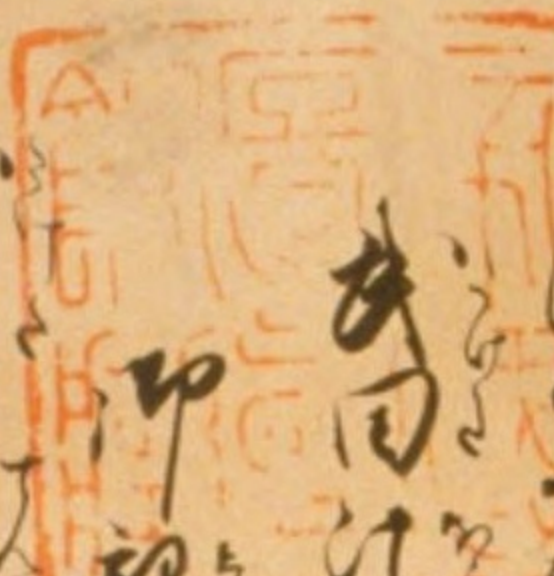


10-002

国立国会図書館



甲陽軍鑑卷第十



此同江州院信玄公の御人給事

甲辰龍元

一 武田典康

旗 馬見白丸

二百騎

一 武田信玄

旗 文之白丸

八十騎

一 旗本

旗 白地之文字

二百騎

一 旗本

旗 白地之文字

同

一 武田信玄

旗 文之白丸

十八騎

一 武田信玄

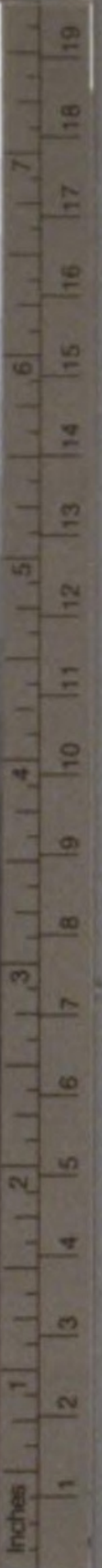
旗 同

百騎

一 武田信玄

旗 文之白丸

同



一 中月夜 難多きまじり 六十石

一 一山夜 同 多きまじり 百石

一 極夜 同日 同 同

一 本夜 同日 同 二百石

一 守山夜 同日 同 同

伊豫守家老記

一 馬場義法守 同日 同 百石

一 内家修理 同日 同 二百石

一 山縣之長 同日 同 三百石

一 一之助 同日 同 四百石

一 小山田 同日 同 二百石

一 甘利 同日 同 百石

一 今福 同日 同 百石

一 今福 同日 同 七十石

一 今福 同日 同 百石

一 今福 同日 同 六十石

一 今福 同日 同 百石

一 今福 同日 同 七十石

一 今福 同日 同 百石

一 物斗ちま

三〇〇〇〇石

八十八石

一 少文のりこ

三〇〇〇石

四十石

信列と市取

一 三田沼をねむつ

無文石

二百石

一 三田沼

四十石

百六十石

一 松尾

百石

百石

一 松木

八十石

八十石

一 金井

七十石

七十石

一 守尾

六十石

六十石

一 四ツ

十石

六十石

一 川

水

一 石

十石

一 川

六十石

一 石

六十石

一 川

六十石

一 石

六十石

一 川

六十石

一 石

六十石

一 川

六十石

一 石

六十石

一 川

六十石

一 石

六十石

一 川

六十石

一 石

六十石

一 川

六十石

一 石

六十石

一 川

六十石

一 石

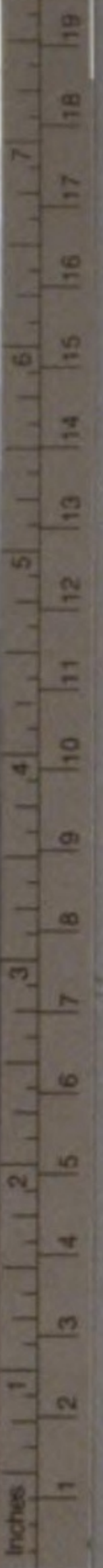
六十石

一 川

六十石

一 石

六十石



10-005

国史館





一 旗名

百十隊

一 同馬

是、大馬あり  
馬場並の馬あり

武蔵先方

一 永井少将の隊 十隊 一小幡三河守

百隊

河原中武者

一 今井新右衛門

わらわらわら

一 藤田十右衛門

足控百人

一 今とれ

隊了十隊

同

六十人

一 市川物下

隊了十隊

同

同

一 成澤

隊了十隊

同

十人

一 西田

同

同

一 今井九郎

隊了十隊

同

十人

一 江

同

同

一 官

同

同

一 小幡

隊了三隊

同

同

一 大

隊了

同

同

一 三

隊了

同

十人

一 長

隊了

同

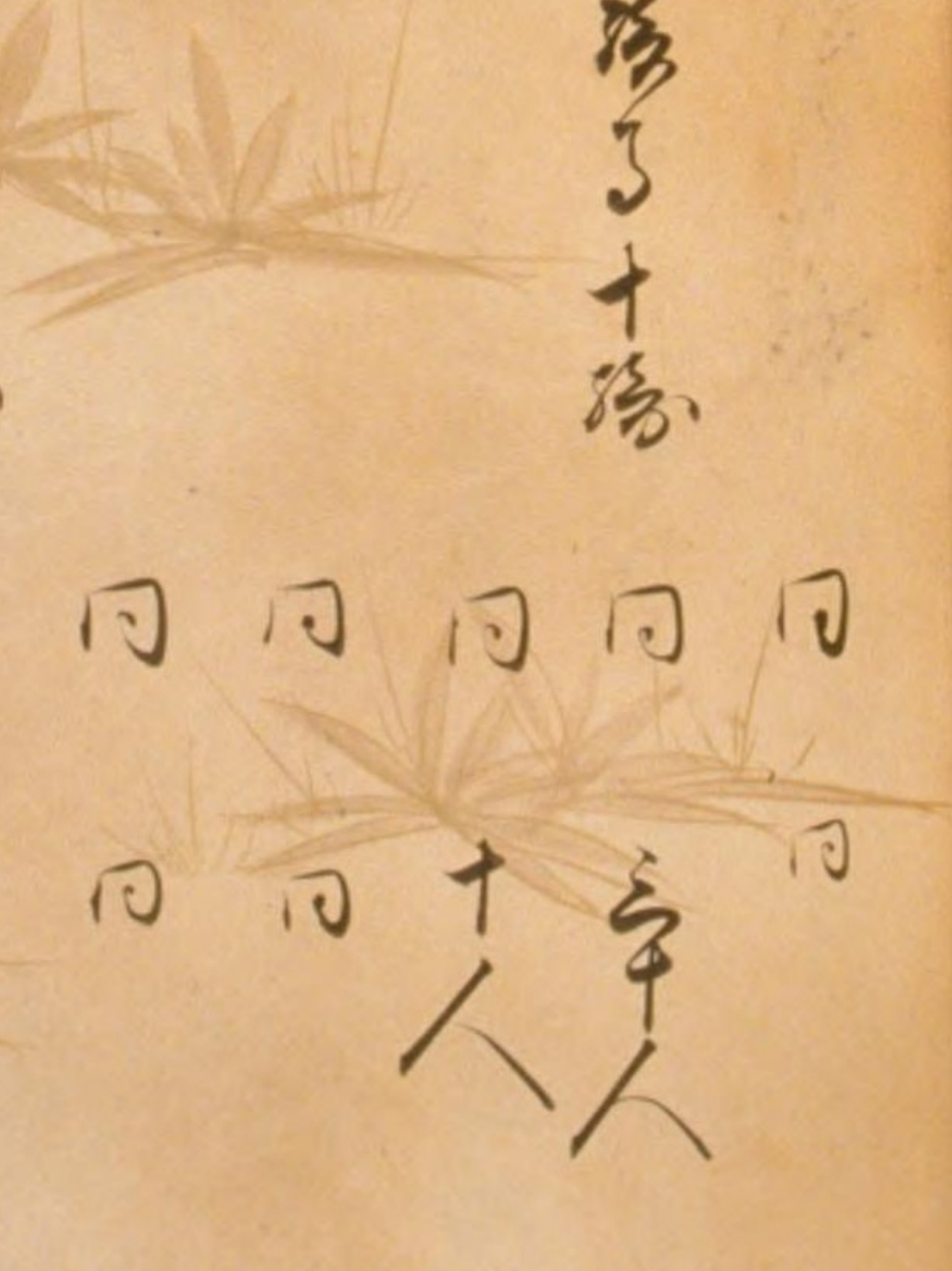
十人

一 下

隊了

同

六十人



800-01



一 多田内通 涉了十八騎 足輕 二十人

一 多田守兵衛 同 同 七千人

一 武藏守兵衛 涉了十八騎 同 二十人

一 三波守兵衛 同 同 七十人

一 川人よ 足輕五十人 一 小幡守兵衛 涉了十八騎 足輕五十人

渡河 三河 三河 同 一 渡合衆

一 河内守兵衛 三河 一 守兵衛 水

一 三河守兵衛 三河 一 中井守兵衛 二河

一 三河守兵衛 三河 一 中井守兵衛 二河

一 三河守兵衛 三河 一 小林守兵衛

一 三河守兵衛 三河 一 ありきり

いかに渡合衆を合てら中略をいさしめ  
美ととりわりの河くまくと合合と  
くまくと一とありきり

御料人指前

一 大味新左衛門 一 同徳寺 毛二人籠

一 小津新左衛門 一 石見八景

一 三河守兵衛 一 竹子

一 三河守兵衛 一 三河守兵衛

一 三河守兵衛 一 三河守兵衛

いむらふ子孫

山岡明成

一ヶふゆい 一とふゆい ちふ人乞いあぢ

とのらぬ料人極く外り

三つらうそ極成

一秋ふらふん 一下際ふん

一みふいせふ 一月利ふふ

一子村活らふ

是れ人ふふとてふらふ子孫はふらふは  
後いふのたてをいふとてふらふは

ふらふはふらふはふらふはふらふは

ふらふはふらふ

山岡明成 一ふらふのふらふ

山岡明成

一とふゆい 一とふゆい 一とふゆい

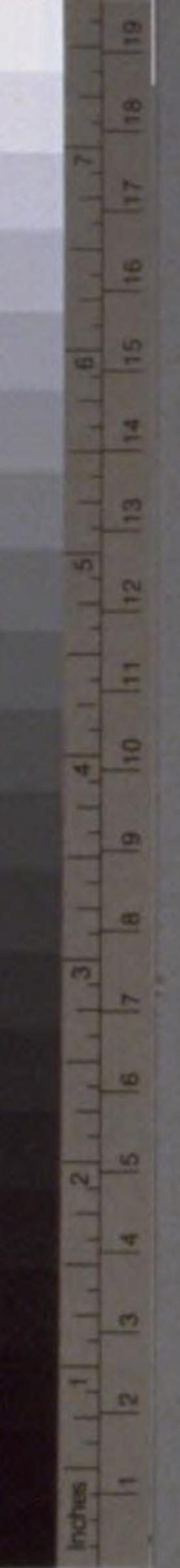
一とふゆい 一とふゆい 一とふゆい

一とふゆい 一とふゆい 一とふゆい

一とふゆい 一とふゆい 一とふゆい

一とふゆい 一とふゆい 一とふゆい

一とふゆい 一とふゆい 一とふゆい



10-010

一 十戸田郷 一 沼中津村

一 十戸田郷 一 市川田郷 一 田代郷

山崎郷

一 河村下郷 一 内巻郷

山崎郷

一 百河郷 一 戸内河原大郷

一 嶽 山崎郷

山崎郷

一 今福津郷 一 武蔵郷

山崎郷

山崎郷 山崎郷 山崎郷 山崎郷

山崎郷

一 沼中津郷 一 沼中津郷

一 市川田郷 一 市川田郷

山崎郷

一 山崎郷 一 山崎郷

一 沼中津郷 一 沼中津郷

一 山崎郷 一 山崎郷

一 山崎郷 一 山崎郷

一 大甲 一 小文の民衆のふるまひ人

小者前してつう人繼いで一日に成つるん

よの暮と作支成つてしりて

ありしつ日分府らふのつなつて河津地め

しつとささやま一ましくらふちよれや

一 坂中武芸家 一 坂東お茶つ 一 武井はる巻つ

一 長野の茶束 一 川の茶束 一 碓日お記

一 美井の茶束 一 池田の茶束 一 伊原の茶束

一 切田部へ出ていふ十人九人の所いふは徳ま

この力そめははる湯とりりらうんのをえん

えりりらう一人しめらるわ村うられ旅人

よまの人つて形くら一地は村人おれおれお

人といふうてつと入茶のつてりやて

つれ一日一葉茶袋とつてつらて

此横目記

一 藤原の茶束 一 久保田の茶束 一 東の茶束

一 志村の茶束 一 中村の茶束 一 河津の茶束

一 石坂の茶束 一 藤原の茶束 一 山平の茶束

一 久保田の茶束 一 坂下川の茶束

てな人の中の人の中なるなをいりてつら

Inches 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

10-012

国立国会図書館

三〇〇人出陣の儀を以て十日に及ぶ事あり  
ついでに申付しに心付しにやとの  
中より功の物付しに新中一介とて後  
を流わりの目付しに依止ら  
る人わりの積日しにわりの長福七  
年より七月十日の夜に部一の  
長海海にわたりしにわりの  
しにわりのしにわりのしにわりの  
号外よりしにわりのしにわりの  
しにわりのしにわりのしにわりの

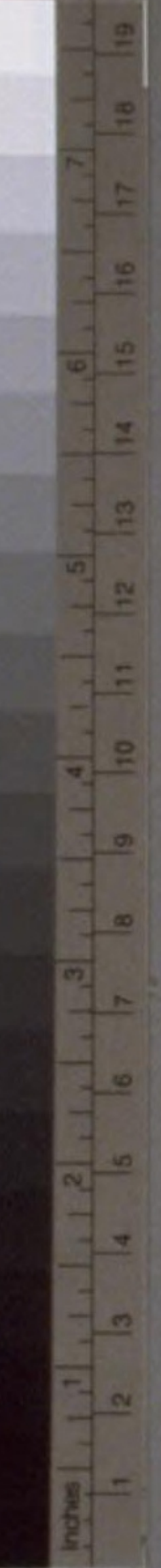
後合わりのしにわりの

しにわりのしにわりの

の申る所

新中一介

信玄よりしにわりの





してゐる事も知らんは其の成なるが  
うらやましくして

一 七 日向の家の成り方人その中より其を  
せしむるものたあらんは其の事も  
いふ事もなくして其の事もいふ事  
の事もなくして其の事もなくして  
其の事もなくして其の事もなくして  
其の事もなくして其の事もなくして  
其の事もなくして其の事もなくして  
其の事もなくして其の事もなくして  
其の事もなくして其の事もなくして  
其の事もなくして其の事もなくして

わきかたは其の事もなくして  
うらやましくして

- 一 東人湯の成り十八
  - 一 山平の成り十八
  - 一 庄東の成り十三
  - 一 久保田の成り六
  - 一 中村の成り三
  - 一 名保田の成り三
  - 一 河津の成り二
  - 一 西村の成り二
  - 一 庄東の成り二
  - 一 庄東の成り二
- と交わりあつて其の事もなくして  
其の事もなくして其の事もなくして

六月十日 晒伝列

はる 上級源内少将の事

今上りの事の割は信列が久部と賀城頭と  
系部と行捕と新少は信可捕太信と也  
ハ件 八月十日 信列の事

信列の事 信列の事

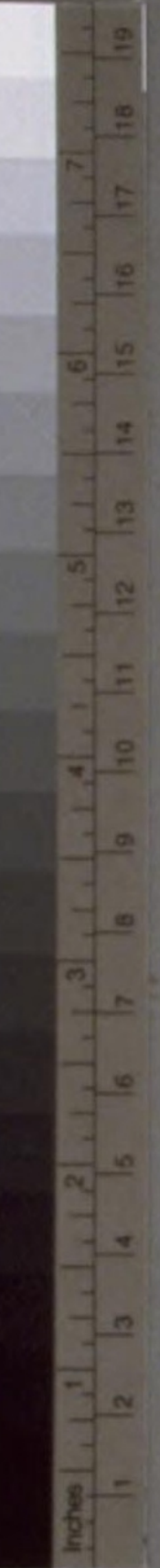
今上りの事割は信列が久部と賀城頭と太信は  
物討捕之の事新少は信可捕太信と也  
通少切上り信可捕太信と也

又三年 八月十日 信列

信列の事 信列の事

信列の事割は信列が久部と賀城頭と太信は  
物討捕之の事新少は信可捕太信と也  
通少切上り信可捕太信と也

一 信列の事 一 信列の事  
信列の事 信列の事  
信列の事 信列の事





一 福ゆふ 一 長ゆふ ちのりひ同明九人

一 ちのりひのちのりひ

ゆふゆふ

一 采煩もいふの 一 神もなれぬ 一 高

法圓への使えぬ人

一 日向湯を焚く 一 杖山十高を湯 一 ちのりひ

人 奥座にすめ人の田へくち作の時

ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

一 河内御軍 一 二友方共湯 一 湯戸庄東也

一 七日ゆふ 一 十日ゆふ 一 十日ゆふ

一 十日ゆふ 一 十日ゆふ

一 十日ゆふ 一 十日ゆふ

一 十日ゆふ 一 十日ゆふ

一 十日ゆふ 一 十日ゆふ

ゆふゆふ

一 十日ゆふ 一 十日ゆふ

ゆふゆふ

一 十日ゆふ 一 十日ゆふ

一 十日ゆふ 一 十日ゆふ

一 十日ゆふ 一 十日ゆふ

ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

河上之衆

- 一 少延原守方衆 一 極地は下 一 同下衆
- 一 山中八林 一 守河内守 一 長田豐松
- 一 小段法南 一 一祀堂 一 長谷寺
- 一 新友合衆 一 市川衆三 一 中山殊林

河上之衆一萬八千人其の由也

河上之衆一萬八千人其の由也

山下河上

河上之衆一萬八千人其の由也  
百餘の原集人は二十餘村に在りて其の由也

河上之衆一萬八千人其の由也

い

- 一 少延原守方衆 一 極地は下
- 一 山中八林 一 守河内守
- 一 小段法南 一 一祀堂
- 一 新友合衆 一 市川衆三

信樂

信樂 一 少延原守方衆

河上之衆一萬八千人其の由也  
百餘の原集人は二十餘村に在りて其の由也  
河上之衆一萬八千人其の由也  
百餘の原集人は二十餘村に在りて其の由也



わくわくわくわくわくわくわく

一 万石元年一月

成日信長

わくわくわくわくわく

わんわん

わくわくわくわく

わんわん

わくわくわくわくわく

一 万石元年一月 十日 十日 十日 十日 十日

わくわくわくわくわくわくわく

わんわんわんわんわんわんわん

わんわんわんわん

わんわんわんわん

わんわん

わんわんわんわんわんわんわん

わんわんわんわんわん

わんわんわん

一 河内 諸子 計 九千 百 八 十一 人

一 大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

一 又 大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人

大 小 物 計 一 千 七 百 七 十 九 人



勝部元日とてのうへにのりてのたのしきは  
了湯部流守とてのうへにのりてのたのしきは

一馬場との守 一馬場十人

一沼部との守 一沼部十人

今之百部軍兵の陣討にすりてのたのしきは

中一旅のうへにのりてのたのしきは

人の守人 一守人

細後流法とてのうへにのりてのたのしきは

一高部との守 一高部十人

一高部との守 一高部十人

一高部との守 一高部十人

一高部との守 一高部十人

一高部との守 一高部十人

一高部との守 一高部十人

一高部との守 一高部十人

高部との守 高部十人

高部との守 高部十人

一高部との守 一高部十人

一高部との守 一高部十人

一高部との守 一高部十人

少し退る十騎は又さうしてさうしてさうして

一 僧敷 一 小坂百騎 一 くらみ丸

一 馬柳 一 小坂 一 小坂 合百七十騎

一 小坂をさす 一 小坂百騎 一 くらみ丸

一 小坂東新保 一 小坂海部 一 奥山 一 小坂

一 小坂 一 小坂 一 小坂 合百七十騎

一 小坂 一 小坂 一 小坂 合百七十騎

一 小坂 一 小坂 一 小坂 合二百十騎

一 馬場義法 一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂

一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂

好住守

一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂

一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂

一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂

一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂

一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂

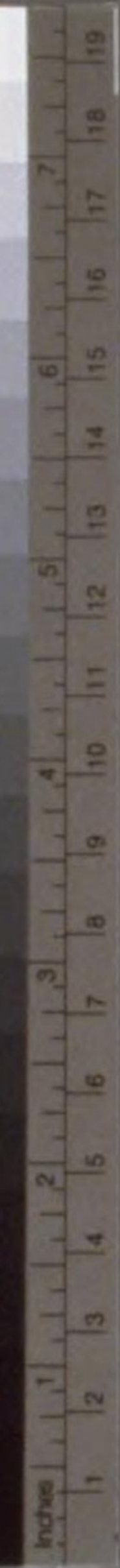
一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂

一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂

一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂

一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂 一 小坂

右のが子とせしむるの流







一 豊前守のり 一 小幡かきり 一 小幡日原守  
一 小幡日原守 一 小幡日原守 一 小幡日原守  
一 小幡日原守 一 小幡日原守 一 小幡日原守  
一 小幡日原守 一 小幡日原守 一 小幡日原守

国分記

一 海利 一 小幡日原守

国分記

一 小幡日原守 一 小幡日原守 一 小幡日原守  
一 小幡日原守 一 小幡日原守 一 小幡日原守  
一 小幡日原守 一 小幡日原守 一 小幡日原守  
一 小幡日原守 一 小幡日原守 一 小幡日原守

一 小幡日原守 一 小幡日原守 一 小幡日原守  
一 小幡日原守 一 小幡日原守 一 小幡日原守  
一 小幡日原守 一 小幡日原守 一 小幡日原守  
一 小幡日原守 一 小幡日原守 一 小幡日原守

国分記

一 小幡日原守 一 小幡日原守 一 小幡日原守  
一 小幡日原守 一 小幡日原守 一 小幡日原守  
一 小幡日原守 一 小幡日原守 一 小幡日原守  
一 小幡日原守 一 小幡日原守 一 小幡日原守

白土に所 一 守屋久人の事 一 長門守 一 八木兼  
りなる 一 守屋久人の事 一 長門守 一 八木兼  
一 守屋久人の事 一 長門守 一 八木兼

二ノ目迄

一 典殿 守屋久人の事 一 守屋久人の事  
一 守屋久人の事 一 守屋久人の事  
一 守屋久人の事 一 守屋久人の事  
一 守屋久人の事 一 守屋久人の事  
一 守屋久人の事 一 守屋久人の事

同ノ事

一 守屋久人の事 一 守屋久人の事  
一 守屋久人の事 一 守屋久人の事  
一 守屋久人の事 一 守屋久人の事

同ノ事

一 守屋久人の事 一 守屋久人の事

同ノ事

一 守屋久人の事 一 守屋久人の事  
一 守屋久人の事 一 守屋久人の事  
一 守屋久人の事 一 守屋久人の事  
一 守屋久人の事 一 守屋久人の事

同ノ事

一 守屋久人の事 一 守屋久人の事  
一 守屋久人の事 一 守屋久人の事  
一 守屋久人の事 一 守屋久人の事

同ノ事

一 平利<sup>ひらり</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 桑<sup>くわ</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 水<sup>みづ</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 病<sup>びやう</sup>の所<sup>ところ</sup>

一 河<sup>か</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 津<sup>つ</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 市<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 田<sup>でん</sup>の所<sup>ところ</sup>

田之所

一 宇<sup>う</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 野<sup>の</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 山<sup>さん</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 河<sup>か</sup>の所<sup>ところ</sup>

一 深<sup>ふか</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 津<sup>つ</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 市<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 田<sup>でん</sup>の所<sup>ところ</sup>

一 一<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 市<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 田<sup>でん</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 河<sup>か</sup>の所<sup>ところ</sup>

一 一<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 市<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 田<sup>でん</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 河<sup>か</sup>の所<sup>ところ</sup>

一 一<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 市<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 田<sup>でん</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 河<sup>か</sup>の所<sup>ところ</sup>

一 一<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 市<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 田<sup>でん</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 河<sup>か</sup>の所<sup>ところ</sup>

田之所

一 一<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 市<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 田<sup>でん</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 河<sup>か</sup>の所<sup>ところ</sup>

田之所

一 一<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 市<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 田<sup>でん</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 河<sup>か</sup>の所<sup>ところ</sup>

一 一<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 市<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 田<sup>でん</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 河<sup>か</sup>の所<sup>ところ</sup>

一 一<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 市<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 田<sup>でん</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 河<sup>か</sup>の所<sup>ところ</sup>

一 一<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 市<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 田<sup>でん</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 河<sup>か</sup>の所<sup>ところ</sup>

一 一<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 市<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 田<sup>でん</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 河<sup>か</sup>の所<sup>ところ</sup>

一 一<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 市<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 田<sup>でん</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 河<sup>か</sup>の所<sup>ところ</sup>

一 一<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 市<sup>いち</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 田<sup>でん</sup>の所<sup>ところ</sup> 一 河<sup>か</sup>の所<sup>ところ</sup>

てあらぬれ一摺のいしあふまふりては  
のゆゑ家人たがしあふりていひけし

一 東より一市川物下 一 山崎 一 丸根

と日人信列也河の五城

一 あり友信言るに山崎のいふに

とて身村海ありて村ありとて

さしきとてあり

一 甲州の北より山崎野井にあり

一 山崎のいふに山崎のいふに

外のいふに山崎のいふに

ありとてあり

一 田舎のいふに山崎とあり

のいふに山崎のいふに

一 山崎のいふに山崎のいふに

のいふに山崎のいふに

のいふに山崎のいふに

のいふに山崎のいふに

のいふに山崎のいふに

のいふに山崎のいふに

のいふに山崎のいふに



甲陽軍鑑  
 35冊 WA32-1

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1  
 甲陽軍鑑 35冊 WA32-1  
 甲陽軍鑑 35冊 WA32-1  
 甲陽軍鑑 35冊 WA32-1



一 各列にありて其の文曰く其のこころありて

よきことありてしるなり

一 勝頼公信列は其のたゞしき日に出城し

一 三人とてわたりてしるなり其の命の取盡あり  
つりやわ

一 此の城にすむるに其のちりも

一 三河を治すのちりて其の治を三列に交らる  
取盡ししりや

一 三列に其のちりてしるなり一 巻石形中  
しるのちりや

一 奥平と其のちりの取盡し一 三河のちりてしるなり

一 三河のちりてしるなり

一 三河のちりてしるなり

一 三河のちりてしるなり

一 三河のちりてしるなり

一 三河のちりてしるなり

一 三河のちりてしるなり

一 三河のちりてしるなり

一 三河のちりてしるなり

一 三河のちりてしるなり



一 信列 城のふちゆりくわ合之 一 浮科陣正

浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

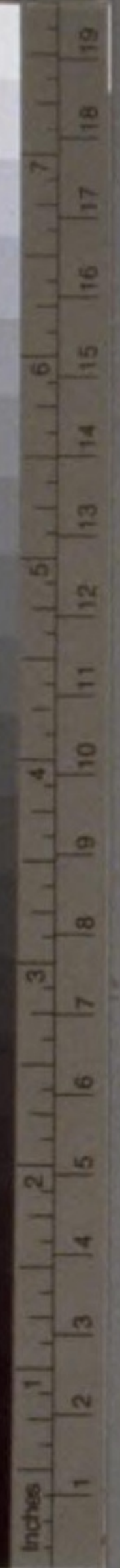
一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正 一 浮科陣正

10-033

つらねてくさるる事一ふ成り今さらん  
よく世の交よ一人しつらぬれ  
の場おんも人れもさうり河の業内  
ふと東軍人ふれもさうり河の業内  
あせりつらぬれ

大徳言のつぬの事一法口のつぬい  
虎新田つらぬれもさうり河の業内  
物交原のつぬれもさうり河の業内  
そのつらぬれもさうり河の業内  
法言のつぬれもさうり河の業内

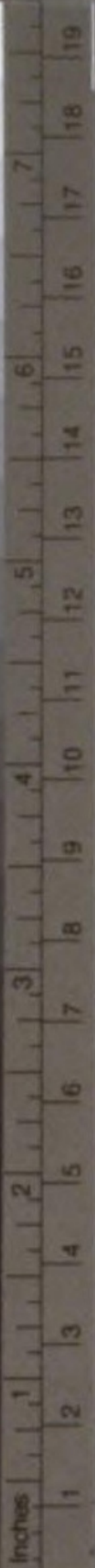
と腹らつらぬれもさうり河の業内  
法言のつぬれもさうり河の業内  
つらぬれもさうり河の業内  
つらぬれもさうり河の業内  
つらぬれもさうり河の業内  
つらぬれもさうり河の業内  
つらぬれもさうり河の業内  
つらぬれもさうり河の業内  
つらぬれもさうり河の業内  
つらぬれもさうり河の業内



10-034

国立国会図書館

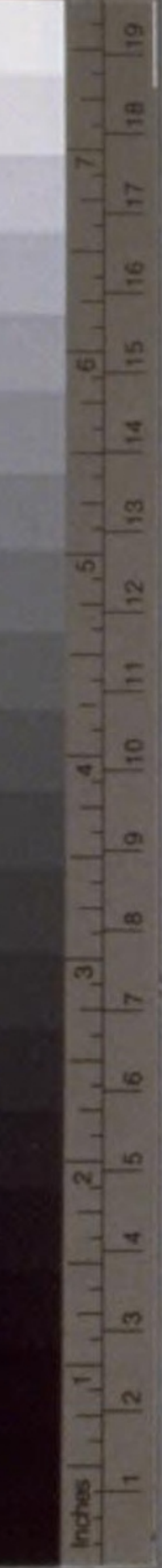
又...  
...  
...  
...  
...  
...  
...







行...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...



10-038



あつたのちしりてあつたあつた  
一人の別はあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

滝川 伊豆守

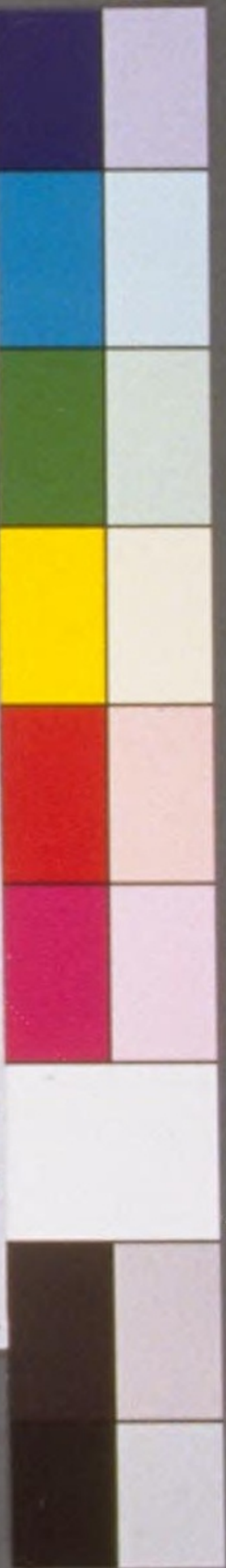
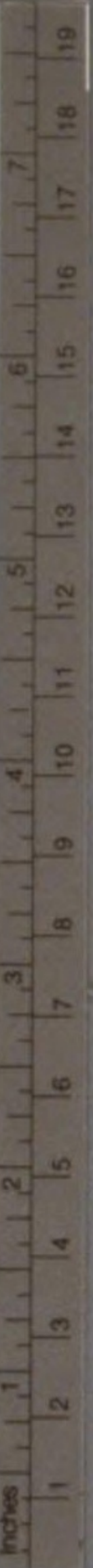
あつたあつたあつたあつたあつた

永禄十二年正月十日

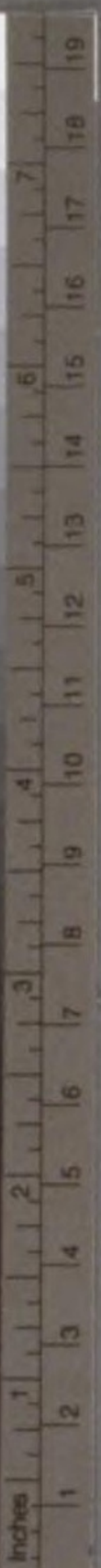
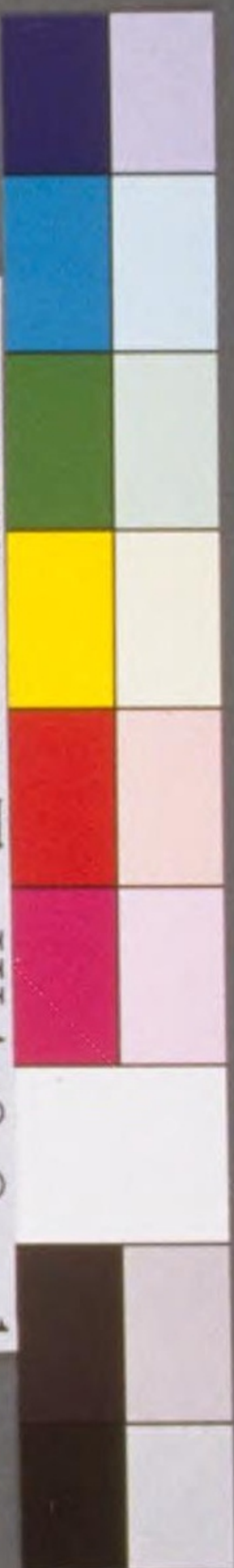
あつたあつたあつたあつたあつた

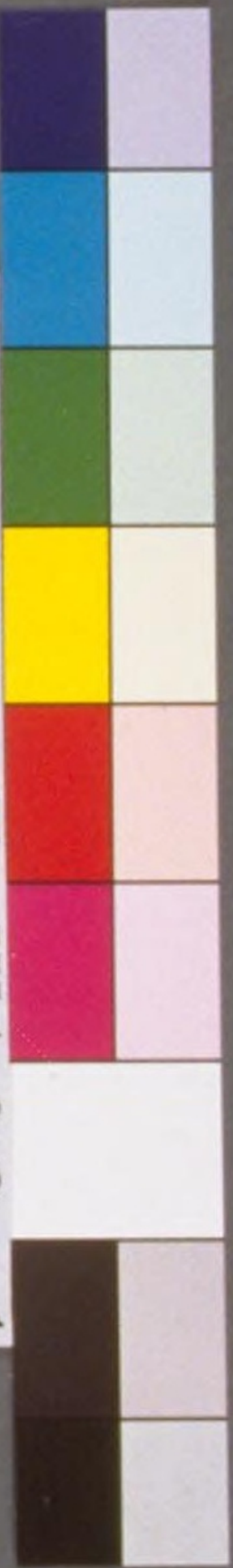
あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

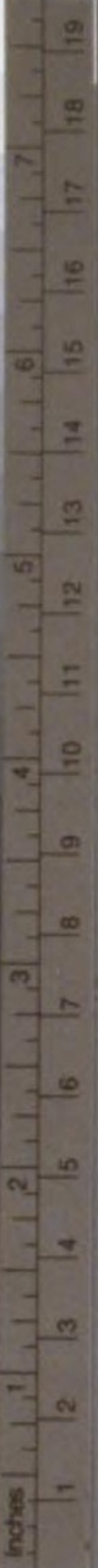




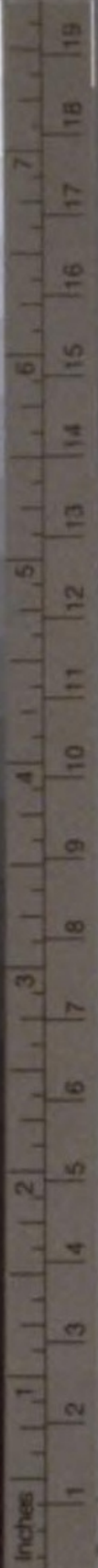
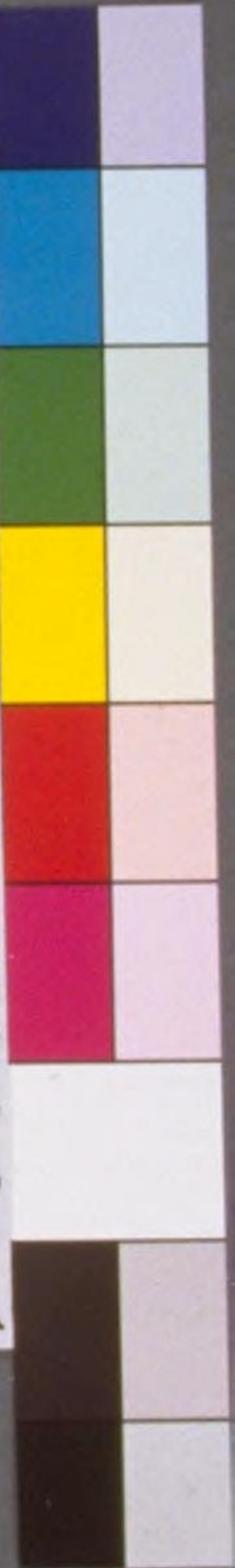




Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho) on two pages. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The characters are fluid and connected, typical of the cursive style used in historical documents. The text appears to be a narrative or a list of events, with some characters being more prominent than others. The right page contains approximately 15 lines of text, while the left page contains approximately 12 lines. There are some faint markings and bleed-through from the reverse side of the pages.



Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), spanning two pages of an open book. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left on each page. The ink is dark brown on aged, yellowish paper. The right page contains approximately 12 columns of text, while the left page contains approximately 11 columns. The handwriting is fluid and characteristic of the Edo period.

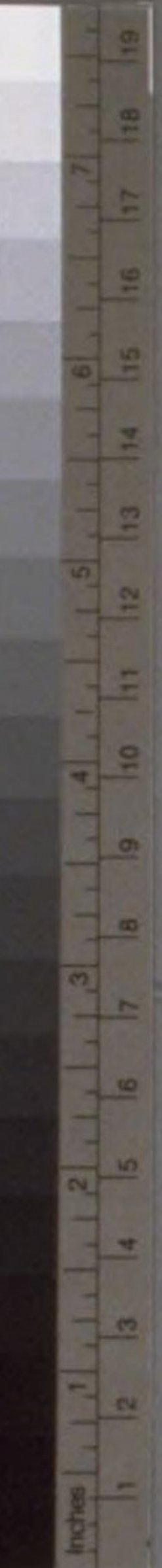


10-043



とくはしつとの家臣の御代に於ては  
 庶民からやんといふ事なくして  
 ともなくしりくんとむすむ事  
 三年三月の申候月大にま物<sup>マモノ</sup>を  
 しく法も家康の人は法を  
 分<sup>ワケ</sup>字<sup>ジ</sup>物<sup>モノ</sup>形<sup>カタ</sup>のあくつ<sup>アクトフ</sup>越<sup>コ</sup>年<sup>ネン</sup>のりまに  
 事<sup>コト</sup>に伊<sup>イ</sup>指<sup>ササ</sup>の衆<sup>ムラ</sup>の人のたりの  
 事<sup>コト</sup>に伊<sup>イ</sup>指<sup>ササ</sup>の衆<sup>ムラ</sup>の人のたりの  
 事<sup>コト</sup>に伊<sup>イ</sup>指<sup>ササ</sup>の衆<sup>ムラ</sup>の人のたりの  
 事<sup>コト</sup>に伊<sup>イ</sup>指<sup>ササ</sup>の衆<sup>ムラ</sup>の人のたりの

事<sup>コト</sup>に伊<sup>イ</sup>指<sup>ササ</sup>の衆<sup>ムラ</sup>の人のたりの  
 事<sup>コト</sup>に伊<sup>イ</sup>指<sup>ササ</sup>の衆<sup>ムラ</sup>の人のたりの  
 事<sup>コト</sup>に伊<sup>イ</sup>指<sup>ササ</sup>の衆<sup>ムラ</sup>の人のたりの  
 事<sup>コト</sup>に伊<sup>イ</sup>指<sup>ササ</sup>の衆<sup>ムラ</sup>の人のたりの  
 事<sup>コト</sup>に伊<sup>イ</sup>指<sup>ササ</sup>の衆<sup>ムラ</sup>の人のたりの  
 事<sup>コト</sup>に伊<sup>イ</sup>指<sup>ササ</sup>の衆<sup>ムラ</sup>の人のたりの  
 事<sup>コト</sup>に伊<sup>イ</sup>指<sup>ササ</sup>の衆<sup>ムラ</sup>の人のたりの  
 事<sup>コト</sup>に伊<sup>イ</sup>指<sup>ササ</sup>の衆<sup>ムラ</sup>の人のたりの  
 事<sup>コト</sup>に伊<sup>イ</sup>指<sup>ササ</sup>の衆<sup>ムラ</sup>の人のたりの  
 事<sup>コト</sup>に伊<sup>イ</sup>指<sup>ササ</sup>の衆<sup>ムラ</sup>の人のたりの





いづれに目見し人のあつたにと抄部や

ふいふふふふふふふふふふふふふふ

かのふふふふふふふふふふふふふふ

大のふふふふふふふふふふふふふふ

とてふふふふふふふふふふふふふふ

ともふふふふふふふふふふふふふふ

城守しやあつたりの古家へのうへに

と法合して法合と伊呂川へふりたむ

ゆふふ川に同名しやたふふふふふふ

つせのらふふふふふふふふふふふふ

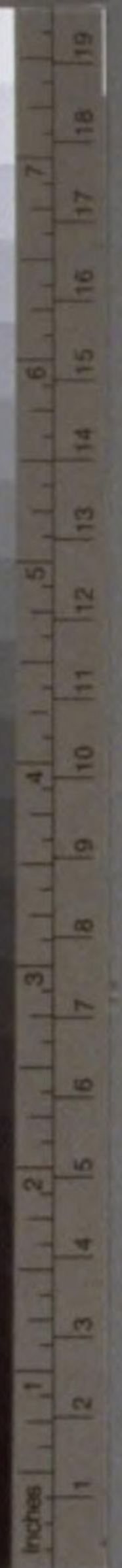
ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふ





Inches 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

10-048

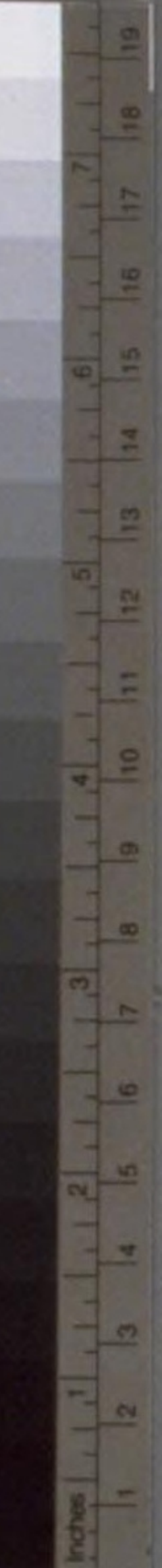


田代のしんあしはらんの屋敷のまゝに  
いかにしんあしはらんの屋敷のまゝに  
目しりゆんしんあしはらんの屋敷のまゝに  
浪波のしんあしはらんの屋敷のまゝに  
くわんのしんあしはらんの屋敷のまゝに  
あまのしんあしはらんの屋敷のまゝに  
とちのしんあしはらんの屋敷のまゝに  
しらけのしんあしはらんの屋敷のまゝに  
むつねのしんあしはらんの屋敷のまゝに  
いかにしんあしはらんの屋敷のまゝに

のらりくすしんのしんあしはらんの屋敷のまゝに  
いかにしんあしはらんの屋敷のまゝに  
とちのしんあしはらんの屋敷のまゝに  
あまのしんあしはらんの屋敷のまゝに  
むつねのしんあしはらんの屋敷のまゝに  
いかにしんあしはらんの屋敷のまゝに

あらしも先通信交をゆゑに

- 一柳居 一むら
- 一わろし 一むら
- 一河又 一むら
- 一か入る 一むら
- 一草白 一むら
- 一馬川 一むら
- 一か城は 一むら
- 一あえ 一むら
- 一むら 一むら



10-049



よきさうじゆとちやねの影日よを  
寄り候へし人の内流みせりしとせ

濱松家康宛

- 一家康よりしりし とせ 寄り平書せしめ
- 一酒井左衛門尉 一甲根平左衛門 一某日七九
- 一平田平兵衛 是の村出羽 一久保左衛門尉
- 一柳原小次郎 是の家でその巻を 一平井左衛門尉
- 一久保左衛門尉 一松平左衛門 一平田百介
- 一石川油香守 是の酒平左衛門 一酒井左衛門 是の家者
- 一水野宗常 是の家康母方 一松平左衛門 是の家者

- 一あね左衛門 一平田左衛門 一内藤左衛門
- 一内藤左衛門 一松平左衛門 一平田左衛門
- 一松平左衛門 是の酒平左衛門 一平田左衛門
- 一松平左衛門 是の酒平左衛門 一平田左衛門

- 一うらふ 一三の東 一あねの 一平田
  - 一竹の 一わを 一あねの 一平田
- とてか左列のゆかり候言ふは  
一平田 一あねの 一平田

うらふとせ

此書よりくわしりてしるべき事ありて  
又一人の語を  
右甲州の人其の陣をあらわす言ひ  
しに信州の境より十月より陣を  
すむ人其れ候りり多候しとの事

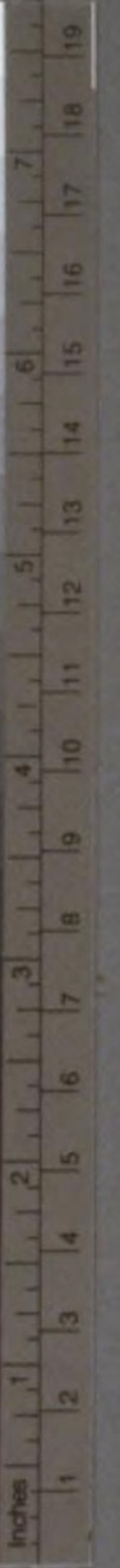
長正六年丁卯九月三日

右坂原正

左坂原正

此中右坂原正

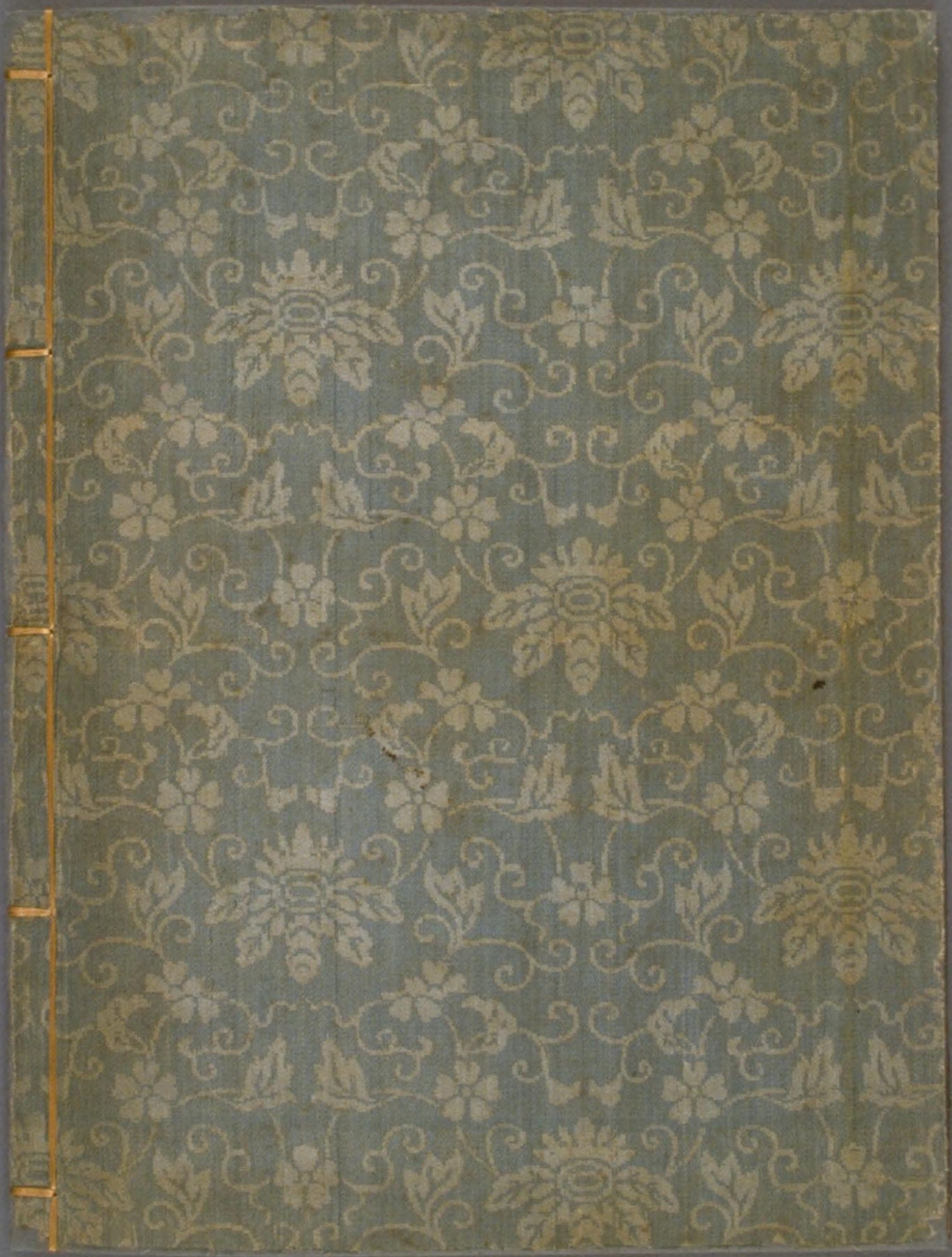
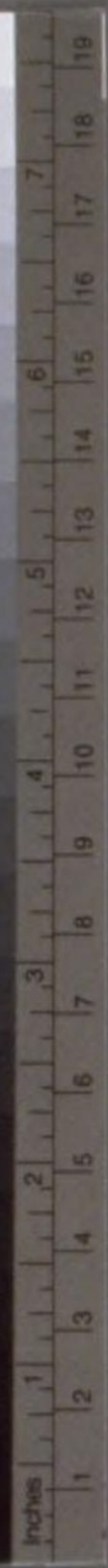
云



10-052

10-053

國立中央圖書館



甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

